

観音

昭和62年7月

第7号

年2回発行

編集発行

小出真行



真理は人の心の中に在る

(応奉写秘密法蔵文)



日照地藏

水かけ地藏

御真言

おんかかびさんまえいそわか

このお地藏さまは、「日照地藏」と云

今で人の願いをお聞き下さいます

特に女性が御真言を唱えながら

このお地藏さまの頂(額)に水をかけ

拝みますと、どんな婦人か

豊饒めらかな有難いお地藏

人という建物



人間は、肉体、情緒、知性、精神を積み上げた四階だての建物であると言われています。これを図に示しますと

4階	精神
3階	知性
2階	情緒
1階	肉体

一、二階は先天的本質的なもの
三、四階は後天的、教養によるもの

しかし、この四階だての建物も、身心を鍛える事によって如何なる建物にもなりますので、日々を悔いることなく努力、精進する事が一番大切でしょう。

さてあなたは、どんな建物ですか？

般若心経



以無所得故 菩提薩埵

以般若波羅密多故 心無罣礙

無罣礙故 無有恐怖

遠離一切顛倒夢想 空慧涅槃

無所得を以ての故に、菩提薩埵は、般若波羅密多に依るが故に、心に罣礙無し、

罣礙無きが故に、恐怖あること無し、

一切の顛倒夢想を遠離して涅槃に究意す。

（無所得を以ての故に、菩提薩埵は、般若波羅密多に依るが故に）

「得る所なきを以ての故に」とは、何もかも空しくして、自分のものは何一つない、何一つないということもない、自分もない

「菩提薩埵」というと、大変むつかしく感じられますが、梵語の「ボーディサットヴァ」の音訳で、略して「菩薩」とも言います。「菩薩」とは、悟りを求める人、つまり求道者と訳されます。

「般若波羅密多に依るが故に」とは、世の中のあるがままの姿を知り、ひとしくあるべき姿になれる実践方法に依るといふ事ですので、私達が住んでいます迷いの世界より悟り

の世界へ至る方法という事です。

（心に罣礙無し、罣礙無きが故に恐怖あること無し）

「罣礙」とは、さえない、さまたげるの意味ですが「覆われることがない」とか「こだわりがない」と思っ下さい。従って「心に罣礙無し」という事は、心を覆う障得がないもないという事で迷悟とか生死とか善悪という自意識のない柔らかな心を指します。

湛道義の「心経決談抄」に「苦中に苦を離れ、楽中に楽を離る。かくの如く、障得なければ苦楽滅道もなきにあらずや、苦は苦でよし、楽は楽でよし、苦楽空想なれば、苦ある時は苦に遇うてよし、楽ある時は楽に遇うてよし、何の防ぐことこれあらん」という境地なのです。

従って、「罣礙無きが故に恐怖ある事無し」とは心に何のこだわりもないので恐い事が一つもないという事なのです。

（一切の顛倒夢想を遠離して涅槃に究境す）

「顛倒」とは、あまりびっくりした出来事に「気が顛倒して、どうしていいかわからなかった。」とよく聞きますが、つまり、ひっくり返ること、うろたえて騒ぐことの意味な

のですが、仏教語では「道理をその通りに見ずにさかさまに間違えて見ること、真理に違ふこと」なのです。

「夢想」とは、真理を見ないで無常の世の中にありながら、永遠なものを求めようと悩むのです。これは、もとを正せば私達は皆、自分が可愛いからで、この無理な要求を心に描くことなのです。

「一切の顛倒夢想を遠離する」とは、従って、私達の色眼鏡で誤って、さかさまに世の中を見ていた考え方を離れて、あるがままのものを、ありのままに見る事を言うのです。

「涅槃」とは、梵語の「ニルヴァーナ」の音訳で「悟りの境地」つまり、全ての迷いを脱した平安な心の状態をいいます。

「究境」とは、「最上」という意味で、従って「涅槃に究境す」とは、最も素晴らしい悟りの境地に至るといふ事です。

要約しますと、得る所なきをもつての故に求道者は、迷いの世界より悟りの世界に至る方法をよりどころとして、心に何のこだわりも持たず、こだわりがないので、恐れる事もありません。

そして様々な迷いから離れて悟りの境地に至るのです。いいかえれば、一切の迷いを脱して世の中のあるべき姿を見極めれば、この

世に存在する全ては誰の所有物でもない（自分のものは何一つない）ことに気付き、そうした事に目ざめれば、即座に苦しい人生の中にあっても幸せになれるという事なのです。

日照地藏



正観寺の本堂の横に「水かけ地藏さま」が五基安置してありますが、この「水かけ地藏さま」の中央に座していますのを「日照地藏さま」といいます。この名前の由来ですが、日照とは太陽の陽の光が全ての人に分け隔てなく照らします様に、どんな人の悩みも救いとしてくれる有難い「お地藏さま」なのです。ではどうして正観寺に「日照地藏さま」が安置されているかと申しますと、正観寺は昔、浅野藩の祈願所として栄え、現在の広島市白島九軒町にありました。そのころ、浅野藩の奥女中が、それはとてもひどい婦人病をわずらったそうで、医者にも見放され病気は悪くなる一方でした。困った奥女中は密かに一基の「お地藏さま」を正観寺に寄進され、水を頂にかけては一心に病気の全快をお願いしたそうです。すると不思議なことにどんな医者にも見放されていた不治の病が快方に向い、最後には健康なものと体になったそうです。それ以来、特に婦人病に靈験があることか

ら「お地藏さま」を寄進する人が増えて、今では五基の「お地藏さま」が安置されています。何故「お地藏さま」の頂に水をかけるのかと申しますと、全ての悪い所を「お地藏さま」の清浄な法水によって洗い清めて下さるという意味ですので、医学の進歩した現在でも「お地藏さま」の頂に水をかけて一心に祈る姿が絶えません。

「お大師さまのことば」

「心暗きときは、
即ち遇う所悉く禍なり
眼明かなるときは
則ち途に触れて皆宝なり」
(性霊集より)



これは「招提寺達観文」のなかの一節であります。どういう事を示しているのかと申しますと、心のなかがスッキリせず、なにかもやもやしたものがあつた時には、どんな楽しい事に出会っても、かえって腹立たしくなるばかりで面白くないものでして、この気持が外に現れてきますと対人関係など色々な面でもうまく行かなくなり不幸を招くものになりませんが、逆に心のなかが明るく、何のこたわることもなく、伸び伸びとしている時には、全ての物事がうまく順調に進みますし、目に写

る全てのものが悉く力一杯躍動しているかの様に思え、素晴らしい価値観が見い出されるのです。

という事は、心を明るく保ち何のかだかまもりも捨てざる事が幸せになる第一歩ではないでしょうか。

「どこに功德が」

私達は平素よく、仏前に「お水」「御飯」「お花」「お香」「お燈明」をお供し供養致しますが、これは「御仏さま」や「御先祖さま」を敬い崇めざる事なのです。そして「御仏さま」や「御先祖さま」を供養する事によって自分の徳がさらに磨かれ、そして仏の道に進む事が出来るのです。

では、私達が平素家庭においてお供えています「お水」「御飯」「お花」「お香」「お燈明」について少し意義と功德について述べてみましょう。

(1) 茶湯(布施の徳)



「お茶」でも「お水」でも同じことではありません。

水には全ての物を活かす活力があります。これは全ての物に行きわたって、その生命を保たせて下さる仏の慈悲の徳をいただくので



ありますから、「お茶」や「お水」をお供えすることによって布施の徳が成就するのであります。



(2) 塗香（持戒の徳）

普通一般の家庭ではあまり用いられません、法事の時やお寺にお拜りに行きますと、住職から塗香をのひらに乗せてもらう事があります。この塗香は清めるという意味がありまして、仏のおん身に塗るといふ観念で、香りのよい香を自分の両手に塗りますと身も心もすがすがしくなります。従って清い心になりますので悪い考えや行動が出来ませんので、仏の戒めを守る徳がそなわるのです。



(3) 華（忍辱の徳）

「花」は美をあらわします。きれいな花をながめていますと心がなごやかにって腹の立つのも忘れてしまいますから、花の様な笑顔で楽しい日々が暮らせます。従って四季おりおりの花を仏前にささげまして忍辱慈悲の（なにごとにも耐え忍ぶ）仏の徳をいただけるのであります。ただトゲのあるものと匂いの悪いお花はあまり好ましくありませんのでさげましょう。

(4) 焼香（精進の徳）

この「お焼香」には、抹香をたくのと線香を立てる二通りがありますが、どちらも精進の徳を表します。線香は一方の端に火をつけますと、途中で休んだり、わき道へそれたりしないで一方の端まで焼えて行きます。私達も線香の様に終始一貫とした人の道を守り、仏の道に進んでまいりますと、きつとかぐわしい人格の匂を身にまよって人から尊敬されるようになるのです。

(5) 飯食（禪定の徳）

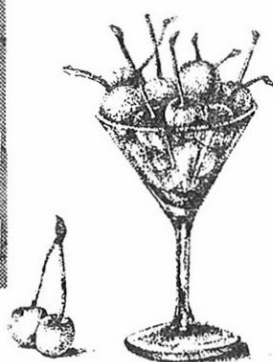


これは「ご飯」のことです。食物には味の徳がありまして、よい味は人を満足させ、良い心を起こさせるものであります。人間というものは、とかくお腹がすいてますと、赤ん坊では火のついた様に大泣きをし、子供では物を投げたり壊したりしますし、大人になっても気持がイライラして落着きがなくなりますが、従ってお腹がすきますと粗暴になりがちですが、腹一杯の時は気持もゆったり落着きます。いつも仏前に「ご飯」をお供えしておきますと、心に落着きが出て、安定した生活が出来る様になります。

(6) 燈明（智恵の徳）

「お燈明」は光りであります。極端に言えば、暗黒は地獄で光明は極楽です。仏さまは智恵の光明を輝かせて世の中を照らし人の心の暗を除いて下さるのですから、仏前に「お燈明」を献じる功德によって、いつも明るい心を持ち正しい生活の智恵を得て向上し進歩をとげる事が出来るのです。

この様に仏前の供養を行いますと、功德がたくさんそなわるのです。どうぞ皆様もこの功德があるという事をかみしめ、より人格を磨きましよう。そして、私達が現在この様に幸せに生きて行けますのも、「御仏さま」や「御先祖さま」のお陰という感謝の気持も忘れないようにしたいですね。



編集後記

皆様方の体験記、人生論等をお待ちしています。

